



里親の支援ニーズと支援機関の役割：  
里親アンケート調査結果からの考察

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-09-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 嘉余子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/15565">http://hdl.handle.net/10466/15565</a>

# 里親の支援ニーズと支援機関の役割

——里親アンケート調査結果からの考察——

伊藤 嘉余子

**要旨：**本研究の目的は、里親が里親支援機関（児童相談所・里親会・民間支援機関・里子の出身施設）に対してどのような支援ニーズをもっているかを明らかにしたうえで、今後の里親支援体制のあり方について考察することである。そのために、本研究では里親を対象に実施したアンケート調査のテキストデータの分析を行った。テキストマイニングと内容分析を行った結果、多くの里親が、民間支援機関への高い相談ニーズを有していることが明らかになるとともに、里親は相談内容やニーズに応じて、児童相談所、里親会、民間支援機関、里子の出身施設等の里親支援機関を使い分けていることが明らかになった。また、里子の出身施設と里親との連携・交流が少ない現状にあることが示唆されたことから、新たに施設に配置された里親支援専門相談員の役割を明確化することは今後の課題の一つといえる。

**Key Words：**里親、里親支援、児童相談所、里親支援専門相談員

## I. 研究の動機と研究目的

### 1. 日本の社会的養護における「家庭養護（里親養育）」推進の流れと里親支援充実の必要性

2009(平成21)年12月に、国連総会で「児童の代替的養護に関する指針」が採択された(厚生労働省2009)。これを受けて日本政府は、この指針で使われている用語に合わせて「家庭養護(family-based care)」と「家庭的養護(family-like care)」を区別し、前者を里親家庭やファミリーホーム、後者を施設養護としてのユニットケアや地域小規模児童養護施設等であると定義した。さらに、政府は2011年に「社会的養護の課題と将来像」をまとめ、そのなかで里親委託率の向上(委託率30%)

を目標とし、その達成に向けて、里親制度の拡充を含めた社会的養護制度の新たな施策づくりを推進している(厚生労働省2011)。

里親委託を積極的に推進し、里親制度を活性化すべきだという機運が高まるなかで、単に里親委託率を上げるだけでなく、委託後いかに安定した里親養育を継続できるよう支援するべきかという視点から、日本における里親支援に関する検討や研究も活発化しつつある。

こうした流れのなか、厚生労働省は「2008(平成20)年児童福祉法改正と里親制度の充実」の一環として「里親支援事業」および「里親委託推進事業」を統合した「里親支援機関事業」に対する補助を開始した。それ以降、全国の自治体において、里親支援機関の設置や里親支援事業の民間委託などが進められている。

## 2. 里親支援における児童相談所の役割と民間機関への期待・可能性

里親支援に関する多くの先行研究が、里親支援における児童相談所（以下、児相）の役割の重要性を指摘している。例えば、神奈川県児相職員である佐藤（2010）は「里親支援の基本は里親と児相の信頼関係」としたうえで、民間機関ほどの柔軟性や迅速な対応は難しいものの、公的機関として児相が里親支援の機能を果たすことの必要性や重要性を強調している。萬屋（2010）は、里親登録前から里親の人となりを知りうる立場である児相だからこそ、登録後、委託時、委託後…と里親に継続した支援を行えるという強みを指摘している。また、奈良ら（2011）は、里親のソーシャルサポートと情緒的疲弊に着目した調査結果から、里親にとっての家族や里親仲間によるサポートの重要性を指摘するとともに、里親夫婦とともに「秘密を共有できる存在」としての児相が果たす里親支援の役割の重要性を指摘している。宮里・森本（2012）は、「良い里親だ」、「信頼できる」などといった里親への「承認役割」を児相が果たすことの重要性について指摘している。

その一方で、児相にのみ里親支援機能の多くを求めることを疑問視する意見もある。林（2012）は、児相における里親支援体制充実だけでは不十分であり、里親支援業務に民間機関を活用することの必要性を主張している。

里親支援機関事業が国庫補助事業となる2009年度以前より、先駆的に里親支援を展開してきた民間機関が存在する。例えば、社団法人家庭養護促進協会（神戸事務所・大阪事務所）やNPO法人「里親子支援のアン基金プロジェクト」などがある。こうした機関の実践内容などを全国に発信していくような取り組みも今後は必要になるだろう。

さらに、西郷（2013）は、「里親」への支援として特化したものだけでなく、市町村における子育て支援の資源を里親支援に活用することの必要性を指摘している。また、伊藤（2015）は、里親へのインタビュー調査結果から、里親に対する受容・共感的な関わりや承認・評価の必要性に加え

て、里親にとって複数の理解者・支援者が地域にいることの重要性を指摘している。

## 3. 施設に配置された里親支援専門相談員の役割

2012年度より、全国の乳児院と児童養護施設に里親支援専門相談員を配置することができるようになった。初年度は、全国乳児院29人・児童養護施設86人で合計115人であったが、2014年10月には乳児院79人・児童養護施設246人（合計325人）と、相談員を配置する施設は年々増加している（厚生労働省 2015）。

こうしたなか、乳児院における里親支援専門相談員の実践報告<sup>1)</sup>はいくつか発表されているが、児童養護施設の里親支援専門相談員に関する実践報告や先行研究は見当たらない。各施設で配置が進められている里親支援専門相談員が今後果たすべき役割について、検討する必要があると思われる。

## 4. 研究目的

児相をはじめとする里親支援機関に対して、こうした支援を利用する立場にある当事者の里親自身がはたしてどのように考えているのかについて検証された先行研究は少ない。里親自身が、現存する支援機関に対してどう考えているのか、また、実際にどのような内容の相談をどの支援機関に行っているのかについて踏まえたうえで、今後の地域における里親支援体制について考究する必要があるのではないかと考えた。

そこで本研究では、里親を対象として実施した里親支援に関するアンケート調査結果を分析することによって、里親自身が各里親支援機関に抱いているニーズや意見などについて明らかにし、今後の里親支援体制のあり方について考察することを目的とした。

## II. 研究方法

### 1. データ収集方法

近畿圏内にある5自治体（2府県3政令指定都市）の協力を得て、自治体内で登録しているすべ

表1 調査対象となった5自治体における里親支援を行う民間団体の設置状況

	里親支援を行う民間団体の設置状況
A	自治体内に民間支援団体の設置なし。児相や施設が里親支援を実施。 地域によっては近接市の公益社団法人を活用する里親もあり。
B	NPO法人あり。多くの里親支援事業を行政から受託。 地域によっては近接市の公益社団法人を活用する里親もあり。
C	公益社団法人あり。多くの里親支援事業を行政から受託。
D	公益社団法人あり。多くの里親支援事業を行政から受託。
E	児童養護施設を運営する社会福祉法人に支援機関を設置。

での里親585名を対象に、郵送法によるアンケート調査を実施した。なお、調査対象となった自治体における里親支援を行う民間機関の設置や里親支援事業の実施状況などについては表1のとおりである。

主な調査項目は、里親の基本属性（年齢、性別、勤務形態、登録年、登録種別（現在・過去）、受託人数、同居家族等）、里子に関する情報（受託経験、人数、里子の年齢、委託元、実親との交流等）、里親になった動機、委託前のマッチングの状況、里親の相談支援機関（児童相談所・里親会・民間の里親支援機関・里子の出身施設）への相談経験の有無と「相談しやすい／相談しづらい理由」、里親として必要とする支援や研修などである。

調査時期は2013年7月～8月である。郵送にあたっては、住所など里親の個人情報保護のため、各児童相談所に里親人数分の調査票を渡し、各児童相談所において調査票の封入・発送作業をお願いした。調査票の返送については、調査票とともに同封した返信用封筒によって、各里親から大学研究室宛の個別郵送とした。その結果、319名の回答を得た（回収率54.5%）。

## 2. 分析対象としたデータ

先述したアンケート調査における、里親の相談支援機関（児童相談所・里親会・民間の里親支援機関・里子の出身施設）への「相談しやすい／相談しづらい理由」に関する自由記述欄（以下、「里親の相談支援機関への意見」とする）と、各相談支援機関に実際に相談した内容に関する自由記述

欄のテキストデータの2種類を分析対象として、前者についてはテキストマイニングの手法を、後者は内容分析の方法を用いて分析を行った。前者と後者とで分析方法が異なる理由として以下の2点がある。まず後者のテキストデータは「実際に相談した内容」ということで、具体的な病名や障害名、施設や支援機関などの固有名詞などが多く記述されていたためである。2点目として、主語述語が存在する文章ではなく、箇条書きや体言止め、単語のみといった記述が多かったことがその理由である。

里親の相談支援機関への意見に関するテキストデータとして分析対象としたのは計538件で、その内訳は、児相に関するもの166件、里親会147件、民間支援機関108件、里子の出身施設117件である。なお、回答者319名のうち、複数の記述をしている者もいるため、テキストの数え方として「件」を用いており、「.（句点）」の区切りごとに「1件」とカウントしている。

各相談支援機関に実際に相談した内容に関する自由記述のテキストデータとして分析対象としたのは計363件（児童相談所164件、里親会83件、民間支援機関56件、里子の出身施設60件）である。

## 3. 回答者である里親の基本属性

回答者である里親の属性について説明する。

まず、性別については、男性91名（28.5%）、女性215名（67.4%）、無回答13名（4.1%）であった。次に年齢については、30代24名（7.5%）、40代115名（36.1%）、50代98名（30.7%）、60代63

名(19.7%), 70代以上14名(4.4%), 無回答5名(1.6%)であった。里親登録年については、図1のとおりである。

受託したことのある里子人数については、図2のとおりである。なお、調査時現在、委託児童を養育している回答者は196名(61.4%)で、里子総数は274名である。

#### 4. 分析方法

##### 1) テキストマイニング

各相談支援機関への「相談しやすい/しづらい理由」に関するテキストデータを分かち書き処理により分解し、構成要素変数を作成した。分かち

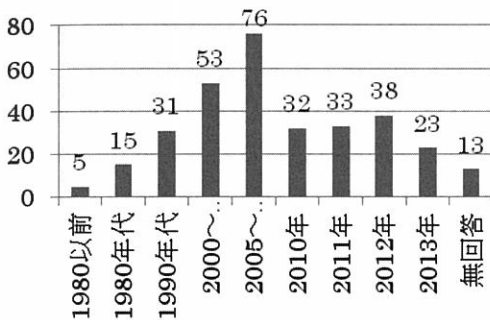


図1 回答者の里親登録年 (人)

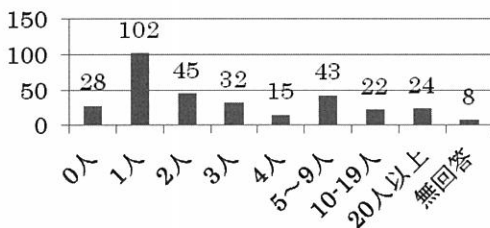


図2 回答者のこれまでの里子受託人数 (人)

表2 機関ごとの相談しやすさ

	とても相談しやすい		まあ相談しやすい		やや相談しづらい		相談したくない		無回答	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
児童相談所	58	18.2	123	38.6	62	19.4	21	6.6	55	17.2
里親会	60	18.8	89	27.9	65	20.4	30	9.4	75	23.5
民間支援機関	43	13.5	66	20.7	59	18.5	30	9.4	121	37.9
子の出身施設	45	14.1	58	18.2	59	18.5	44	13.8	113	35.4

(n=319)

書き処理がなされた構成要素に含まれる句読点、助詞、記号を除外し、単独では意味をもたない語を削除した。また、同意語や類似語を一つに置換する作業を行った。なお、特定の民間支援機関の固有名詞については、「民間支援機関」にすべて統一した。

次に、形態素分析を行い「名詞」、「形容詞」、「動詞」を抽出した。さらに、構成要素の出現頻度、相談支援機関別の対応分析とクラスター分析を行い、各相談支援機関に寄せられた意見の内容について検証した。

本調査において、各相談支援機関の相談しやすさについて4件法で回答を求めたところ、表2のような結果となった。しかし、自由記述欄に書かれたコメントと照合すると、必ずしも「相談しやすい」と回答した者が「相談しやすい理由」を記述しているとは限らないことがわかる。

アンケートの自由記述欄の分析においては、「客観性の保持」と「恣意性の排除」の2点が重要な課題といえる。この問題を解決し、テキストデータから新たな知識発見を行う方法としてテキストマイニングがある。

本研究では、選択的項目の集計からだけでは読み取ることのできない、回答者の意見の本質的な内容について明らかにすることを目的としてテキストマイニングの手法を用いた分析を行うこととした。なお、テキストマイニングソフトとして、SPSS Text Analysis for Surveysを用いた。

##### 2) 相談内容の内容分析

回答者が相談支援機関に実際に相談した内容に関する自由記述について、Krippendorff (1980) に

よるメッセージ分析（内容分析）法に基づき分析を行った。

この分析法は、記述内容がもつ、特定の属性を客観的かつ体系的に同定することによって推論を行うことを目的としたデータ分析法である。本研究では、記述内容から、各相談支援機関別に実際に相談した内容の特徴を分析することによって、里親が潜在的に各機関に求めている役割を明らかにすることを目的とした。具体的な分析方法は、以下のとおりである。①データのなかから、「里親／里子のニーズ」に着目して相談内容に関するキーワードを抽出する。②抽出した全項目を共通した内容ごとにコードを付して分類する。③分類した項目について、より広い領域としてのカテゴリーに整理する。

なお、内容分析過程において、分析の信頼性および客観性を確保するため、筆者を含めた3名で分類、確認を進めた。

## 5. 倫理的配慮

本研究は、大阪府立大学大学院人間社会学研究科が設置する研究倫理委員会において審査を受け、倫理的配慮がなされていると承認を受けたものである。

のである。

調査票に同封した調査依頼文書および調査票表紙に、調査の目的、調査で得たデータの活用方法、結果公表時に個人などが特定されることのないよう十分配慮することなどについて誓約する内容を明記し、調査への回答・調査票の返送をもって、その内容に同意を得たこととした。

## Ⅲ. 結 果

### 1. 各相談支援機関への意見に関する記述のクラスター分析（表3～6）

各相談支援機関に関する記述において、出現頻度の累計が全出現頻度の50%以上になることを基準に分析対象語を選出、これらの構成要素間の関連性を探索するためにクラスター分析を行った。なお、分析過程で、クラスター分析上、意味のある分類の妨げになると考えられた用語「職員」、「里親」は除外した。

#### ① 「児相への相談しやすさ／しづらさ」（表3）

七つのクラスターに分類された。児相職員の専門的かつ丁寧な関わりに満足している一方で、職員異動や土日祝の対応、立地等、行政機関として

表3 「児童相談所への相談」クラスター分析結果

クラスター分析の結果	クラスター名	件数(比率)	自由記述の一例
1 親身/関わり/相談しやすい	職員の丁寧な関わり	34 (20.5%)	親切で話しやすい/熱心な職員がいる/時間をかけて話をきいてくれる
2 専門職/アドバイス/迅速/対応/里子/知る	専門的な助言支援	24 (14.5%)	すぐに対応してくれる/専門職で色々知っているから/適切なアドバイスがもらえる/里子や家族のことを知っている
3 事務的/忙しい/答える	職員の対応への不満	35 (21.1%)	いつも忙しそう/事務的でその場しのぎ/職員不足で相手をしてもらえない
4 担当/変わる/異動	職員の異動や交代	35 (21.1%)	担当が変わると相談できない/担当がよく変わる/異動が多い
5 遠い/時間/平日	児相の特性	15 (9.0%)	場所が遠い/平日しか連絡できない/土日祝の相談が不可能
6 委託解除/相談しづらい	児相のイメージ	15 (9.0%)	委託解除につながる/里親の味方をしてもらえない/不適當と思われたくない
7 養子/ない	相談の必要性なし	8 (4.8%)	特別養子縁組で自分の子になったので相談の必要ない/相談することがない

(n=166)

表4 「里親会への相談」クラスター分析結果

クラスター分析の結果	クラスター名	件数 (比率)	自由記述の一例
1 ベテラン/経験/ 同じ/共感/アドバイス/きく/話	ベテラン里親の経験 談からの学び	23 (15.6%)	経験ある先輩にアドバイスがもらえる/経験 者の話は参考になる
	里親同士の共感的理 解	15 (10.2%)	気持ちをわかりあえる/同じ立場で共感して もらえる
2 親身/話しやすい/交流	里親同士の仲間づく り	32 (21.8%)	里親仲間で頻繁に集まり交流がもてる/仲間 同士で話しやすい
3 愚痴/相談	相談ではなく愚痴	15 (10.2%)	世間話はするが相談はしない/相談というよ りも愚痴
4 違う/悩み/養子/里子	悩みの共有不可能	13 (8.8%)	養子里親と養育里親は悩みが違う/個別の事 情が違う
5 参加/里親会/ない/知らない	参加不可能	18 (12.2%)	仕事をしているので平日は参加できない/遠 いので難しい
	参加未経験	17 (11.6%)	まだ登録していない/入会していない/参加 したことがない
6 敷居/高い	相談しづらいイメー ジ	14 (9.5%)	親しい人がいない/里親会に入りたくない/ 年配者が多く敷居が高い

(n=147)

表5 「民間支援機関に相談しやすい/しづらい理由」クラスター分析結果

クラスター分析の結果	クラスター名	件数 (比率)	自由記述の一例
1 継続/受託前/里子/最初	長期にわたる継続的 な支援	22 (20.4%)	同じ人が継続してくれる/最初から見守って くれている/委託前後もお世話に
2 担当者/親身/専門的/アドバイ ス/話しやすい/経験/話	職員による丁寧な対 応	14 (13.0%)	親切にアドバイスをもらえる/親身になって 話をきいてくれる/専門的な知識が得られる
3 批判/相性/対応	相談しづらさ	18 (16.7%)	対応が不平等だった/担当職員との相性の問 題/担当者が苦手
4 児童相談所/里親会	他機関の存在により 不要	7 (6.5%)	市役所が毎月訪問してくれる/児童相談所に 相談できる/里親会で間に合う
5 知らない/わからない	存在の未確認	38 (35.2%)	どこにあるかわからない/どのような機関か 知らない/わからない/知らない
6 関わり/遠方/疎遠	疎遠	9 (8.3%)	遠方なので電話がほとんど/自分からは連絡 しづらい/関わりがない

(n=108)

の児相がもつ特性への不満があることがわかる。

② 「里親会への相談しやすさ/しづらさ」(表4)

六つのクラスターに分類された。ベテラン里親からの学びの大きさや里親同士の共感の重要性が強調される一方で、「知らない」、「参加できない」といった、里親会と関わりのないグループも存在した。

③ 「民間支援機関への相談しやすさ/しづらさ」(表5)

六つのクラスターに分類された。「知らない」、「わからない」が最も多い一方で、職員の異動がない点など、児相と比べての相談しやすさを強調する記述も多かった。

表6 「里子の出身施設に相談しやすい/しづらい理由」 クラスター分析結果

クラスター分析の結果	クラスター名	件数(比率)	自由記述の一例
1 里子/知る/できる/生育歴	子ども理解に必要、 養育に有効	20 (17.1%)	里子の生育歴を知っている/小さい時の様子を知ることができる/里子のことをよく知ってくれている
2 担当者/親身/交流/定期的	相談しやすさ	13 (11.1%)	親身になりアドバイスをくれる/担当者が話しやすい/定期的に交流している
3 退所/長い	相談の必要性なし	15 (12.8%)	養子になったので相談することがない/退所してから長い/もう離れて長い
4 乳児院/違う/児童養護施設	施設と里親の違い	10 (8.5%)	施設と里親は違うから参考にならない/施設で問題があつての委託だから/乳児院に今更きけない
5 関わり/敷居/高い/遠い/相談できない/マッチング	相談不可能	32 (27.4%)	マッチングの時、閉鎖的に感じた/関わりがない/なんとなく敷居が高い/遠いので
6 退職/心配	施設への気遣い	12 (10.3%)	心配をかけたくない/担当職員が退職したので/個人情報なので難しいと思う
7 施設/わからない	相談未経験	15 (12.8%)	相談することがない/施設入所児を委託されたことがない/わからない

(n=117)

④ 「里子の出身施設への相談しやすさ/しづらさ」(表6)

七つのクラスターに分類された。ほかの機関と比べて「相談しづらさに関する記述」が最も多い結果となった。その一方で「里子の生育歴を知ることができる」という利点を挙げる記述も多かった。

2. 各相談支援機関に実際に相談した内容に関する記述(表7~10)

各相談支援機関に実際に相談した内容に関する記述は、六つのカテゴリーに分類された。

見相への相談内容では、非行や暴力といった「里子の行動上の問題」に関する相談が46件(28.0%)と最も多く、次いで「里子の障害や発達の遅れ」35件(21.3%)であった。

里親会への相談内容では、日々の関わりや愚痴など「子育て一般」に関する内容が45件(54.2%)と最も多く半数以上を占めた。

民間支援機関への相談内容では、「里子の行動上の問題」と「子育て一般」に関する内容が同数で最も多かった(18件:32.1%)

里子の出身施設への相談内容では、里子の入所

理由や個別の健康上の情報などといった「里子の生育歴」に関する内容が42件(70.0%)と最も多かった。

3. 里親の支援ニーズと各相談支援機関が果たしている役割(図3)

各支援機関への相談しやすさ/しづらさに関する記述と、実際に相談した内容とを分析した結果から、里親の支援ニーズは、(1)専門的助言・支援ニーズ(非行等の行動上の問題や障害等に関する相談など)、(2)共感・情報共有ニーズ(愚痴が言える、委託前の里子の状況把握など)、(3)里親固有のニーズ(レスパイト・ケア利用、戸籍上の手続きなど)、(4)一般的な子育て支援のニーズ(しつけ、思春期の関わり方など)、の四つに大別できた。

さらに、それらの四つのニーズについて、回答者である里親が各相談支援機関にどのような役割を期待しているのかについて分析結果から探索した結果、図3のような現状であることがわかった。



表7 児相への相談内容（計164件）

里子の行動上の問題 (46)	非行や暴力	32
	試し行動, 情緒不安定等	14
里子の障害や発達 の遅れ (35)	発達の遅れ, 発達検査	19
	発達障害	10
	医療機関等の紹介	4
	知的障害, 身体障害	2
里子の学習や進路 (15)	自立支援, 進路	7
	学習面での遅れ	4
	不登校	2
	高校中退	2
里子の生育歴 (23)	実親との関わり	10
	真実告知	9
	委託前の情報提供依頼	4
子育て一般 (21)	しつけ, 叱り方など	15
	思春期の関わり方	4
	赤ちゃん返り	2
里親としての相談 (24)	戸籍等の行政手続	10
	里親子関係	5
	里子委託の督促	4
	レスパイト・ケアの相談	3
	経済的な問題の相談	2

#### 4. 里親支援機関としての児童相談所の役割の大きさ

相談しやすさ／しづらさに関する記述数および実際に相談した内容に関する記述において、児相に関する記述が最も多く、里親にとって児相がいかに大きな存在であるかがうかがえる結果となった。また、児相の「職員の丁寧な関わり」や「専門的な助言支援」に対する満足が高く、専門性の高い重要な役割を果たしている現状が明らかになった。しかし、その一方で、職員の多忙さや人事異動等に対する不満や「平日のみの相談時間」、「距離の遠さ」などの支援体制への不満も多く、相談支援機関としての継続性や柔軟性が求められているとともに、より身近な相談支援機関の必要性が示唆されたといえる。

表8 里親会への相談内容（計83件）

里子の行動上の問題 (13)	試し行動, 情緒不安定等	8
	非行や暴力	5
里子の障害や発達の遅れ (3)	発達の遅れ	3
里子の学習や進路 (6)	学習面での遅れ	2
	自立支援・進路	2
	不登校・いじめ	2
里子の生育歴 (8)	実親との関わり	4
	真実告知	4
子育て一般 (45)	日々の関わりや愚痴	32
	しつけ・叱り方	10
	思春期の関わり方	3
里親としての相談 (8)	受託前の準備	4
	児相との関係	2
	2人目委託の準備	1
	近所との関係	1

表9 民間支援機関への相談内容（計56件）

里子の行動上の問題 (18)	非行や暴力	10
	試し行動, 情緒不安定等	8
里子の障害や発達の遅れ (6)	情緒障害	3
	発達障害	3
里子の学習や進路 (6)	自立支援, 進路	3
	不登校・いじめ	3
里子の生育歴 (6)	実親との関わり	3
	真実告知	3
子育て一般 (18)	日々の関わりや愚痴	12
	しつけ, 叱り方など	6
里親としての相談 (2)	養子縁組の手続	1
	委託前の準備	1

## IV. 考 察

### 1. 民間支援機関への期待と今後の展開

児相への相談内容と同じように、民間支援機関に対しても里子の行動上の問題など、専門的な助言・支援を求めていることが分析結果から明らかになった。さらに、児相との比較から「職員の異

動がない安心感」,「委託前から築いた信頼関係」といった「支援・関係の継続性」を民間支援機関の強みの一つとして読み取ることができた。しかし,その一方で「民間支援機関に該当する機関がどこかわからない」との意見が非常に多かった。

今回の調査対象自治体における里親支援機関の設置状況は表1に示したとおりであり,なかには,

表10 里子の出身施設への相談内容(計60件)

里子の行動上の問題(9)	非行や暴力	7
	試し行動, 情緒不安定等	2
里子の障害や発達の遅れ(0)		
里子の学習や進路(4)	学習面での遅れ	4
里子の生育歴(42)	入所理由	12
	健康面の注意事項	11
	食事に関する情報	8
	関わり方のコツ	7
	実親との関わり	2
	真実告知	2
子育て一般(5)	日々の関わりや愚痴	5
里親としての相談(0)		

里親支援機関事業開始前から, 児相と連携を図りながら里親支援を実践してきた民間機関がある地域も含まれている。そうした地域においても「里親支援機関を知らない/該当機関がわからない」との記述が多かったことから, 里親を支援する民間機関に関する広報など周知のさらなる工夫の必要性が示唆された。

また, 実際に民間支援機関が身近にないという地域も存在する。今回の調査対象だとA自治体がそれに該当する。平田(2012)によると, 「里親支援機関事業」の実施率は97% (回答のあった都道府県・指定都市・中核市59カ所中57カ所) であり, ほとんどの自治体において里親支援機関を設置している状況が明らかにされている。しかし, 都道府県に一つなのか, 市に一つあるいは複数あるのかと, 里親にとっての「相談しやすさ」「身近さ」は異なってくると考えられる。今後, さらに詳細な実態把握が必要といえよう。また, 同調査によると, 本事業を民間委託していない自治体が25カ所あり, その理由としては「委託できる民間機関がない」(11), 「児童相談所で十分実施できる」(7) という回答であった。今回の調査から, 「里親の立場からの児相への相談しづらさ」や「児相とは違う役割を里親は民間支援機関に求めていること」が

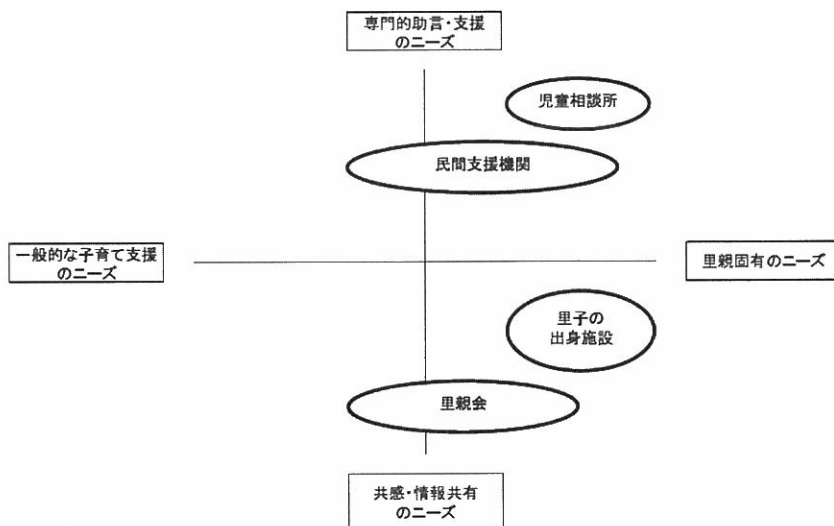


図3 里親のニーズと支援機関が果たしている役割の全体像

明らかになっており、今後、里親支援を担う民間機関を増やしたり、行政（児相）と民間支援機関とのパートナーシップを構築したりするなどして、地域における里親支援ネットワークを充実させていくような取り組みが必要といえよう。

重谷

## 2. セーフティネットとしての里親会の役割

里親会については「相談するために里親会に足を運ぼう」という利用ではなく、日頃から定期的に里親会に参加し、日常的な関わりなどの情報共有を通して「里親仲間」をつくり、いざというときに頼りにしたいという動機づけでの参加が多いことが明らかになった。つまり、問題解決を期待するというよりは、情報共有や共感ニーズを満たすという目的での参加である。

また「同じ里親同士、悩み等共感できることが多い」との記述が多い一方で、「障害や非行など、共有したくない話題もある」との記述も多く、個別的な話題や専門的助言を必要とする話題については里親会では共有しづらい面があり、そうした内容については児相や民間支援機関に相談しているという状況がうかがえた。

今回の調査結果から、里親が里親会に期待する役割の多くは、里親同士の連帯や情報共有、共感的関わりなどであることがわかった。しかし、澁谷（2010）は、里親同士が集う場において、里親間での感情的トラブルやプライバシー侵害などのデリケートな問題が発生している現状を指摘し、当事者活動としての里親会の意義を認めつつも、必要に応じて里親支援に理解あるソーシャルワーカーが関与する必要性を指摘している。

しかし、こうした里親会の運営や活動については、地域差が小さくないという（有村ら 2009）。今後、当事者活動としての里親会のあり方や、里親会を支えるような里親支援事業についても、その地域特性と併せて考慮していく必要がある。

## 3. 里親にとっての里子の出身施設と里親支援専門相談員の役割

里子の出身施設については、里子の施設入所理

由や健康面などの注意事項、里子の性格などを踏まえたうえで関わり方のコツを教えてもらったといった「里子の情報提供ニーズ」が高いことが明らかになった。しかし、里子を養育するうえでは「相談できない」、「相談する必要性を感じない」との記述が多い結果となった。

里親が施設に相談しづらい理由として、クラスター分析結果をみると、「施設の敷居が高い」と感じる里親の多くは「マッチング（交流）時の施設の印象が悪かった」という経験をもっていた。また、「施設と里親との違い」を強調するものも多かった。ここからは「里親は、施設からは参考になる、または有益な話を聴くことができない」という先入観をもっている可能性が示唆された。これらの点から、マッチング時を含めたさまざまな場面における施設と里親とのコミュニケーションのあり方が重要であり課題であるといえる。

乳児院や児童養護施設には里親支援専門相談員が配置されているが、その業務内容や役割はまだ確立されているとはいえない現状である。多くの里親にとって施設は「相談しづらい」と考えられていることが本調査からは示唆されたが、委託した子どもに関する情報提供以外に、施設として里親にどのような支援を提供することができるのか、また、施設の子を委託した里親以外の里親支援も担う里親支援専門相談員が果たすべき役割や実践内容と併せて今後検討していく必要がある。

## V. 本研究の限界と今後の課題

### 1. 本研究の到達点

本研究によって、里親が各里親支援機関に対して、満足・不満足を中心に、どのような意見をもっているのかについて明らかにすることができた。また、実際に相談している内容を分析することによって、里親の抱える支援ニーズの内容を把握するとともに、「一般的な子育て支援のニーズ」に対応している機関が少ないことが明らかになった。

また、近年の社会的養護の制度改革の一環とし

て、施設に里親支援機能をもたせることが方向づけられ、里親支援専門相談員の配置が進められているが、里親自身は必ずしも「施設に相談したい」というニーズをもっているわけではない現状が調査結果からは示唆された。その一方で、先述したように、乳児院を中心に施設と里親とが連携しながらより良い里親養育を追求している先行事例もある。こうした地域差や施設差も踏まえながら、今後、施設と里親とのパートナーシップのあり方について追求していきたい。

本研究の成果は、今後、各自治体・児相管轄地域内における里親支援体制を見直す際に参考となる資料を提供できるものだといえよう。

## 2. 本研究の限界と今後の課題

本研究対象となったのは限られた地域の里親のみであり、本研究結果が、必ずしも普遍性をもつとはいえない面もある。各地域によって児相や施設、民間支援機関などの里親支援を行う社会資源の数やレポートリーには偏りがあると考えられ、里親支援が先進的に展開されている地域の事例研究を含めた、より詳細かつ広範囲にわたる研究が今後必要である。

また、同じ里親のなかでも、例えば養子縁組里親と養育里親といった里親種別の違い、委託された里子の年齢などによっても支援ニーズに差異があると考えられる。今後は、里親や里子の特性による支援ニーズの違いや、里親子のライフステージごとに必要な支援といった視点も踏まえながら、地域における里親支援体制のあり方について検証していきたい。

さらには、里親支援機関事業が創設されたものの、その事業内容が必ずしも明確ではないという指摘もある。庄司(2010)は、里親支援とは「里親への支援」ではなく「里親養育が上手くいくための支援」であるべきであり、委託された子どもへの支援も含めるなど、これまでよりもより広い視野で里親支援について捉え議論されるべきだと述べている。こうした指摘も踏まえ「里親養育がうまくいく」とは、どういうことなのか、里子の

ニーズも視野に入れながら、里親支援に関する研究を進めていきたい。

**謝辞** 本研究は、2013年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「日本における『里親支援体制』の近未来像の構築—里親・施設・行政の有機的連携」の一部を報告するものです。本調査にご協力いただきました、児童相談所、里親の皆様には深謝いたします。

## 注

- 1) 例えば、木内(2014)「乳児院における里親支援専門相談員の役割」『同志社社会福祉学』のほか、厚生労働省(2015)が紹介している「小鳩会」(滋賀県)、「二葉乳児院」(東京都)、「なでしこ」(和歌山県)の取り組み事例などが乳児院の里親支援専門相談員の実践事例や先行研究として挙げられる。

## 文 献

- 有村大士・木ノ内博道・庄司順一・ほか(2009)「地域の里親会活動の現状——調査結果から見えてくること」『里親と子ども』4, 22-81.
- 林 浩康(2012)「社会的養護改革と里親委託推進のあり方」『里親と子ども』7, 9-18.
- 平田美智子・三輪清子・山口敬子・ほか(2012)『里親支援機関事業の実施状況——平成23年度全国の自治体へのアンケート調査より』平成23年度厚生労働科学研究費補助金研究「被虐待児を養育する里親家庭の民間の治療支援機関の研究(主任研究者:開原久代)報告書, 345-76.
- 伊藤嘉余子(2015)「里親の成熟プロセスに影響を及ぼす里親支援」『子ども家庭福祉学』14, 13-23.
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課(2009)『国連総会採択決議:64/142.児童の代替的養護に関する指針』
- 厚生労働省(2011)『社会的養護の課題と将来像』
- 厚生労働省(2015)『社会的養護の課題と将来像の実現に向けて』
- Krippendorff, K. (1980) *Content Analysis: An Introduction to Its Methodology*. Sage. (=1999, 三上俊治・椎野信雄・橋元良明訳『メッセージ分析の方法——「内容分析」への招待』勁草書房.)
- 宮里慶子・森本美絵(2012)「養子縁組里親、養親の抱える

困難とその対処——里親支援枠組みからの離脱とステイグマ』『千里金蘭大学紀要』9, 1-12.  
 奈良隆正・阿部好恵・鈴木幸雄 (2011) 「里親のソーシャルサポートと情緒的疲弊に関する実証的研究」『帯広大谷短期大学紀要：開学50周年記念号』48, 47-54.  
 西郷泰之 (2013) 「乳幼児の子育て支援と里親支援」『里親と子ども』8, 15-9.  
 佐藤隆司 (2010) 「児童相談所による里親支援」『世界の児

童と母性』69, 70-3.  
 澁谷昌史 (2010) 「養育里親への支援」『世界の児童と母性』69, 25-8.  
 庄司順一 (2010) 「里親支援の今後の展望」『世界の児童と母性』69, 9-12.  
 萬屋育子 (2010) 「児童相談所による里親支援」『世界の児童と母性』69, 74-82.

## The Support Needs and the Role of Support Organizations for Foster Families

——Consideration Based on Opinions of Foster Parents——

Kayoko ITO

This study first clarifies what the support needs are for foster parents within the context of foster parent support organizations (for example, child guidance centers, associations of foster parents, support agencies for foster families, and residential care homes for children). Second the study provides a consideration of the future role of foster parent support organizations based on the identified needs. The research method chosen was text mining and Content Analysis.

The analysis results revealed that many foster parents had needs for strong guidance from private support organizations. Also, depending on the topics for consultation, foster parents were choosing to use various facilities, including child consultation centers, foster parent societies, private support organizations, foster parent support agencies and residential care homes for children. In addition, the results suggested that there was limited cooperation and there were few information exchanges between foster parents and staff of residential care homes for children. It was concluded consideration should be given to clarify the role of “the social workers supporting foster parents” of children newly placed in residential care homes.

**Key Words :** Foster parent, Support for foster family, Child guidance center, Social worker supporting foster parent